

「令和5年度予算で検討中の主な取り組み（案）」に対する区民意見募集の結果について

「令和5年度予算で検討中の主な取り組み（案）」についての電子メール等による意見募集の結果は、以下のとおりです。

1 意見募集区分

(1) 電子メール等

- ・募集期間 令和4年12月5日～令和5年1月4日
- ・人数 10名
- ・件数 56件

(2) 区民と区長のタウンミーティング

- ・日時 令和4年12月21日（水）18時半～19時45分
令和4年12月22日（木）18時半～19時45分
- ・人数 21名
- ・件数 22件

2 意見概要

① 人と人がつながり、新たな活力が生まれるまちへの取組

No.	区民からの意見	区の見解・回答
1	(ユニバーサルデザイン推進計画の改定) バリアフリー法改正により、東京都も関連条例の見直しを行っている。バリアフリー法をふまえ、全てのトイレ改修時に、区の建物1つに対し、ユニバーサルシートを最低1つは設置してほしい。ユニバーサルシートは、スペース的に、赤ちゃん用おむつ替えベッドに代替可能である。肢体障害児者が住みやすい中野区を希望している。	中野区ユニバーサルデザイン推進計画において、誰でも利用しやすい施設の整備を示している。推進計画の改定を進めていく中で、設置の可能性を検討していく。
2	(多文化共生事業の推進) 日頃から外国人の意見を聞ける場を情報発信しておく事が大切である。タウンミーティングや区長との対話等に参加しやすくするなど、外国人が区政に意見ができる場と英語などの外国語による情報発信を進めてほしい。	中野区にお住まいの様々な国の方がタウンミーティングに参加しやすくなるように工夫して実施していく。 また、情報発信についても、ホームページやSNS等を活用しながら、区政情報を多言語化や、やさしい日本語により発信していきたい。

No.	区民からの意見	区の見解・回答
3	<p>(区民活動センター等の整備・改修)</p> <p>区民活動センター等の整備改修の際には、ユニバーサルシート設置トイレを増設してほしい。</p>	<p>整備改修にあたり、関係部署と調整し、設置を検討していく。</p>
4	<p>(区民活動センター運営委員会地域支援業務の体制強化)</p> <p>区民活動センター集会室の予約について、働いている人や子育て世代は窓口営業時間内の集会室予約は困難であるため、早急にオンライン化をしてほしい。</p> <p>すでに他の施設ではオンライン予約を取り扱っているため、導入は容易ではないか。オンラインでの予約ができない方には、窓口でオンラインでの入力補助をするなど対応できると思われる。</p>	<p>利用者の利便性向上のため、システムによる予約化など、予約方法の改善の検討を進めている。</p>
5	<p>(中野サンプラザ閉館を契機としたシティプロモーション)</p> <p>以前、線路沿いの空き地を利用した、スケートボードができる広場が好評だった印象がある。</p> <p>オリンピック競技にもなり、中野からも競技者を発掘させる目的や中野に人を集めるきっかけにもなりメリットが大きいと感じている。街の活性化に繋がる期待ができると思う。</p>	<p>中野サンプラザの前面広場は、令和5年7月2日の閉館から再開発事業への引き渡しまでの間において、土地所有者の株式会社まちづくり中野21が、中野サンプラザ営業中と同条件で開放する予定である。</p>
6	<p>(旧中野刑務所正門の修復・移築)</p> <p>歴史遺産であり、文化財である刑務所正門の活用方法について、区民のアイデアを募集する機会を定期的に設けてほしい。</p>	<p>旧中野刑務所正門の移築・修復に係る基本設計の過程で、令和4年度に正門の保存と活用について区民から意見を募る予定である。</p>
7	<p>(文化、芸術体験の充実)</p> <p>検討の際に子どもの意見を聞くと思うが、子ども会議などを活用するなど、大人ではなく子どもの感覚で事業を考えてほしい。</p>	<p>各学校が希望する事業の内容で実施していく。今後も、子どもが文化・芸術により親しみを持ってもらえるよう、子どもの意見も踏まえながら機会の充実を図っていきたい。</p>
8	<p>(中野駅周辺のまちづくり)</p> <p>中野駅周辺の開発が進み、広場ができると聞いている。その広場で、様々なパフォーマンスを自由にできる区民ステージをつくってほしい。</p>	<p>中野駅周辺各地区の開発において創出される公共施設や敷地内の公開空地など広場空間の活用方法についても検討していく。</p>

No.	区民からの意見	区の見解・回答
9	<p>(中野駅周辺のまちづくり)</p> <p>中野駅周辺の整備において、親子が雨天でも遊べる大規模遊具が備えられている施設、園庭がない保育園の子どもたちが頻回に使える公園等を設置してほしい。無料という設定も、誰もが使えるという点で大切だと思う。</p>	<p>中野駅周辺各地区の開発においては、誰もが利用できる広場空間の整備も計画されている。また、再開発事業が進められている地区においては、区が子育て先進区を掲げていることに理解と協力を求め、子どもの遊べる室内空間など、子どもの遊び場となる施設の整備を促していく。</p>

② 未来ある子どもの育ちを地域全体で支えるまちへの取組

No.	区民からの意見	区の見解・回答
1	<p>(中野区子どもの権利に関する条例の推進)</p> <p>中野区内の小中学校に出向いて、子ども相談室の存在を知らせる出前プレゼンを実施してほしい。</p>	<p>子ども相談室を多くの子どもたちに知ってもらうことは、相談しやすい雰囲気づくりに向けて必要であると認識しており、周知の方法について学校の協力を得ながら検討していきたい。</p>
2	<p>(中野区子どもの権利に関する条例の推進)</p> <p>先日、子ども相談室に行ったところ、施設が古く、暗い印象を受けた。相談しやすい雰囲気になることを期待している。また、施設内でイベントや一時保育、子育て広場を実施するなど、親子にとって親しみを持てる施設にしてほしい。</p>	<p>子ども相談室では、面談室の什器の整備等を行うほか、子どもたちがワークショップなどの活動を行うことができる机等の整備など、相談しやすく、親しみを持てる子ども相談室を目指していく。</p>
3	<p>(子どもの貧困対策の推進)</p> <p>就学援助世帯を対象とした「選別的貧困対策」では追いつかない状況のため、「普遍的な貧困対策」が必要である。給食費の無償化を展望して、まずは、給食費の公会計化を行い、次に給食費の1/3程度を区で負担し、その上で、国に全額負担を求めていくべきではないか。</p>	<p>給食費の公会計化については、「中野区基本計画」で、導入検討を行うこととしている。また、給食費の区負担及び国への働きかけについては、区が負担すべき総額のほか、各種の影響を精査しながら、様々な対応について今後研究を進めてまいりたい。</p>
4	<p>(子どもの貧困対策の推進)</p> <p>ひとり親家庭への支援に、養育費立替えの事業を含めて検討してほしい。養育費は夫婦間の問題ではなく、子どもにとって必要不可欠なものである。</p>	<p>養育費の取り決めや確保を目的として公正証書等作成促進補助金を交付しているところであるが、それに加え、令和5年度は裁判外紛争解決手続(ADR)利用促進補助金の交付も予定している。</p>

No.	区民からの意見	区の見解・回答
5	<p>(ひがしなかの幼稚園の第2園庭の整備) とても良い事業だと思うが、一方で園庭のない保育園が多い現実がある。幼稚園は使う時間も短く長期の休みもある。預かり保育もあると思うが、園庭のない保育園も使えるようにしてほしい。</p>	<p>中野東中学校跡地の一部についてはひがしなかの幼稚園の第2園庭として整備するが、同幼稚園が使用しない時間帯については、園庭のない近隣の保育園の遊び場として提供する予定である。</p>
6	<p>(学校図書館機能の充実) 放課後や夏季休業期間に学校図書館を開放するのであれば、地域開放型学校図書館は要らないのではないか。</p>	<p>地域開放型学校図書館は、中央図書館分室としての図書サービスと学校図書館の開放を併せたものであり、本事業の実施で不要となるものではない。</p>
7	<p>(学校運営協議会・地域学校協働本部の設置) 委員の人選について、町会役員の割り当てや校長経験者などではなく、地域で子どもの育成に取り組み、子どもの権利条例についての見識を持った人を人選できるような仕組みを考えてほしい。公募制とし、その方の活動紹介や子どもの権利条例に対する見解についての作文を公募条件にして、その作文や審査結果も公開するようなオープンな仕組みを考えていただきたい。</p>	<p>委員の人選については、子どもや地域の現状を理解し、学校運営や子どもたちの成長をどのように支えていくかを考える資質や能力を有し、委員の間で信頼関係を築くことができる方を考えている。公募制も選考方法の一つとして考えられるが、モデル実施では、日頃の地域と学校の連携から校長推薦を考えているところである。</p>
8	<p>(区立小中学校の指導体制・組織体制の充実) しっかりと教職員を増員する方向で検討してほしい。</p>	<p>令和5年度予算編成においては、学級数が多い小学校について、教員免許を有する任期付短時間勤務教員を増員する方向で検討している。今後も、国や都の補助金も活用しながら、教員の負担軽減及び授業の質の向上につながる指導体制・組織体制を検討していく。なお、正規教員の配置基準については、国・都へ引き続き要望していく。</p>
9	<p>(区立小中学校の指導体制・組織体制の充実) 授業がうまく進んでいない学級があり、保護者も授業中の子どもたちの見守りに協力している。子どもたちの不登校につながるのではと不安である。子どもたちや教員の負担を減らすためにも、学級支援員などの人員を増やしてほしい。</p>	<p>現在、小学校の支援員を増員する方向で検討している。授業中の見守りをはじめ、学習・生活の補助や子どもからの相談対応など一人ひとりに合った支援を行うことで、子ども達が安心して通える学校づくりに努めていく。</p>

No.	区民からの意見	区の見解・回答
10	<p>(教育相談体制の充実)</p> <p>不登校の要因のひとつは、画一的な学校の運営や、やらなければいけないことが多すぎる学校の運営にもあるのでないかと感じている。また、「子どもたちがやりたいことができるような学校運営に近づけていくことが必要ではないか」、「校則やルールについて、宿題のあり方について、学校・保護者に加え、地域とともに考えていくべきではないか」とも感じている。問題提起として、関連するドキュメンタリー作品の上映を各校で行ってはいかがか。</p>	<p>今までも、教育委員会や学校は学校運営の質・量について改善を図ってきたところであるが、さらに教員が子どもたち一人ひとりに向き合える時間を確保できるよう努めていく。また、「中野区子どもの権利条例」に基づき、学校は子どもたちの意見や考え、思いを表明することができる取組を行うことで、一人ひとりの個性を尊重した教育を推進しているところである。なお、関連するドキュメンタリー作品の内容は、参考にさせていただきたい。</p>
11	<p>(区立学校の環境改善に向けた計画的な改修等)</p> <p>小中学校バリアフリー化の際には、トイレにユニバーサルシートの設置をお願いしたい。肢体不自由のある身体障害者だけでなく、未就学児がいる保護者への配慮にもつながる。</p>	<p>既存の校舎内のトイレを改修するため、構造上の安全性やシートを広げる際のスペース等を考慮しながら、設置の可否を判断している。</p>
12	<p>(子育て支援ハンドブック「おひるね」の発行)</p> <p>この間、発行されていなかった子育て支援ハンドブック「おひるね」の充実と普及を広くすすめ、区民の役に立つものにしてほしい。</p> <p>いつでも父母や保育に携わるものが手に取り、有効に使えるようにしてほしい。</p>	<p>中野区の子育て世帯に役立つように、「おひるね」の内容を更新し、充実させていく。</p>
13	<p>(子育て支援ハンドブック「おひるね」の発行)</p> <p>子育てに関する情報をまとめた冊子を発行してもらえるのはうれしい。母親だけでなく、父親の意見も取り入れるなど、子育て世帯と一緒に冊子に載せる内容を検討してほしい。また、子育て世帯の活躍の場を増やすためにも、区有施設の利用方法などの幅広い情報を載せてほしい。</p>	<p>お母さんの妊娠・出産期からお子さんの中学校卒業までの期間の中野区の子育て支援サービス情報を網羅し、掲載する。そのなかで、子育て関連施設や仲間づくりの場も掲載する。</p>

No.	区民からの意見	区の見解・回答
14	<p>(保育所等の空き定員を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業)</p> <p>国の保育士の配置基準がひどすぎる。中野区で一定の加算をしているが、順次この加算を増やしていき、保育の質を上げながら保育定員減に対応していくことが大事なのではないか。</p>	<p>国の配置基準を超えた保育士の配置に係る加算については全額区の歳入で賄っており、これ以上の拡充は難しいと考えている。</p>
15	<p>(保育所等の空き定員を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業)</p> <p>国の指導で「保育士の人件費の弾力運用」が可能になっている。中野区でも保育士人件費比率が50%を切っている民間保育園が複数あると聞いている。これでは、ただでさえ人手不足の保育士がますます集まらなくなり、保育の質の低下につながる。保育士の人件費比率に一定の制限をかけ、たとえば50%未満には助成をしないという措置を取るべきである。</p>	<p>保育所の運営費については、国が定める要件に基づき人件費、管理費、事業費の弾力運用が行われている限り、人件費比率により助成に制限を課すことは困難である。保育士の給与水準は必ずしも人件費比率とは一致していないこと、また、国が保育士処遇改善の取組を推進していることなどを踏まえ、人件費比率の取扱については慎重な検討を要すると考えている。</p>
16	<p>(保育所等の空き定員を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業)</p> <p>年度の初めに空き定員があっても途中入所する場合もある。入所が優先されることが重要と考える。区は、入所が必要な子どもを入所させ保育を行う責任があるのではないか。安定した事業展開が望めないということを前提としたものとして行っていただきたい。</p>	<p>令和5年度はモデル事業として数件の枠での実施を想定している。実施にあたっては、区内の空き状況等を精査し、入所が必要な子どもの利用を制限することがないようにする。</p>
17	<p>(小規模保育施設等における防災対策の推進)</p> <p>小規模保育施設はビルの中や敷地の狭いところに多いので、小さな子どもたちの防災を本気で考え、被害が及ぶことのないようにしてほしい。すべての施設の安全の確保を徹底してほしい。</p>	<p>災害への備えは施設の大小にかかわらず必要であり、施設機能強化推進費の加算がされていない小規模施設等に対する防災対策の推進のための加算を実施していく。</p>
18	<p>(障害児の受け入れに対する加算)</p> <p>障害児を受け入れている施設に対して、予算をつけるだけでなく、子どもの育ちに適切な利用時間の周知と支援の仕方をふくめた環境を整えられる補助をしてほしい。</p>	<p>配慮の必要な園児の預かりを標準の保育時間に延長して行っている認可保育施設(保育所及び認定子ども園)に扶助費の加算を実施していく。</p>

No.	区民からの意見	区の見解・回答
19	(地域子ども施設等の機能拡充等) プレーパーク常設化の検討を行う上では、NPO団体のコンサルティングを受けたり、地域ですでに実践しているプレーパーク活動団体の意見を聴いて進めてほしい。	NPO団体や既存の地域団体のほか、常設プレーパークを設置している他自治体の例も参考にするため、視察やヒアリングを行う等、情報収集を行いながら検討を進めていきたい。
20	(地域子ども施設等の機能拡充等) 児童館や区立保育園の配置については、小学校や中学校の配置と合わせて、人口動態に合わせた適正な配置ができることを望む。改修に当たっては仮の園舎等の施設を効率よく使えることが望ましい。税金が区民のために使われる有効な手段として誰もが納得できるしっかりとした計画をもって行ってほしい。	児童館は、保育園・幼稚園・小学校・中学校の連携教育の中で子どもたちの育成を行ってきたことから、中学校区に1館（区内9館）の配置とする。児童館の改修や設備の修繕を進め、現在行っている建物調査の結果を踏まえ、施設の長寿命化や計画的な修繕、建替時期を検討していく。 区立保育園の適正配置については、保育の質の維持・向上、障害児保育など今後の区立保育園が担うべき役割及び民間保育所の定員充足の状況を踏まえ、地域ごとの保育需要や施設の耐用年数等を考慮して建替整備の考え方を検討していく。
21	(児童館の機能拡充等) 児童館の数を増やすことを充実内容として求める。 廃止したものを現状に合わせた内容と数に戻してほしい。	児童館は、保育園・幼稚園・小学校・中学校の連携教育の中で子どもたちの育成を行ってきたことから、中学校区に1館（区内9館）の配置とする。また、閉館する児童館の跡施設は、地域子ども施設に対するニーズに応えた施策を実現するための施設へ転換する。児童館の閉館や機能転換の時期については、今後さらに検討を進める。

③ 誰もが生涯を通じて安心して自分らしく生きられるまちへの取組

No.	区民からの意見	区の見解・回答
1	(高齢者会館施設的环境改善) 高齢者会館について、特に土日祝日などにおいて、子育て世代も気軽に活用できるようにしてほしい。	高齢者会館は高齢者団体以外の団体も利用は可能であり、夜間・土日祝日の受付管理人を配置することでより利用しやすい環境を整備する。

No.	区民からの意見	区の見解・回答
2	<p>(障害福祉人材育成研修事業)</p> <p>障害福祉人材育成について、民間人材育成事業者へ委託する際には、区として喀痰吸引等3号研修などの特定の資格取得を目途にするなど、今後ますます増える医療的ケア児者への支援が可能となるような指針を定めてほしい。</p>	<p>障害福祉人材育成研修事業は居宅系、日中活動系、入所系、相談支援事業など幅広く障害福祉サービスに従事する職員の人材育成を図ることを目的としているため、喀痰吸引等3号研修などの特定の資格取得の研修は想定していない。医療的ケアを必要とする障害児者に対して痰吸引などのケアを適切に提供するための介護職員の養成研修については、東京都福祉保健財団が実施する研修事業を案内している。</p>
3	<p>(江古田三丁目重度障害者グループホーム等整備事業)</p> <p>江古田三丁目重度障害者グループホーム等整備事業においては、中野区による建物建築の英断に大変感謝している。障害福祉課の説明会に参加したが、中野区として利用者等の意見を最大限考慮していこうとする態度に嬉しく思った。人事異動があっても現担当者の方々の思いを引き続き繋いでいける中野区であってほしいと願っている。</p>	<p>江古田三丁目重度障害者グループホーム等整備事業における施設整備の各段階において、利用者等に対する丁寧な説明と利用者等からの意見の聞き取りを継続していく。</p>
4	<p>(医療的ケア児等支援の連携体制の拡充)</p> <p>医療的ケア児者の切れ目ない支援として「保健」「医療」「福祉」「教育」等専門家と当事者の、顔の見える繋がりに期待する。</p>	<p>医療的ケア児等への切れ目ない支援体制の整備のため、令和5年度から、当事者団体や保健、医療、福祉、教育等の関係機関による協議の場を開催する。</p>
5	<p>(区立図書館蔵書・貸出充実事業)</p> <p>古い本も（閉架書庫にでも）できる限り保存し、蔵書数を充実させることを希望する。利用者としては、読みたい本が蔵書中にある事が第一であり、その為には貸出回数が多い本に集中することより、蔵書数が多いことの方が望ましい。</p>	<p>古い図書であっても、利用頻度やニーズを踏まえ保存していく一方で、一定の廃棄をし蔵書を新しく更新している。</p> <p>また、図書購入経費を増額し、蔵書そのものを一層充実させ、貸出冊数の増加を図る。</p>

No.	区民からの意見	区の見解・回答
6	<p>(障害者スポーツ等の推進)</p> <p>障害者スポーツとして、肢体障害児者への配慮をもった取り組みに感謝している。肢体障害児が通う都立永福学園でも体育の授業でボッチャを行っており、都内肢体特別支援中・高の部活動でもユニバーサルボッチャの大会を毎年夏に行っている。施設に出向いての啓発に期待している。</p>	<p>本事業はスポーツ推進委員の協力により実施するものであり、引き続き、区内スポーツ団体等と連携を図りながら障害者スポーツの機会提供や普及啓発に取り組む。</p>

④ 安全・安心で住み続けたいとなる持続可能なまちへの取組

No.	区民からの意見	区の見解・回答
1	<p>(区立公園の整備等)</p> <p>ワークショップで設計をしていく取り組みはとても良い。公園の管理運営については住民による公園管理運営委員会をつくり、そこが維持管理を一定担っていくことで活用の幅が広がっていくと思う。</p>	<p>子どもから大人まで楽しめる魅力ある公園づくりを実現するため、ワークショップ等により多くの地域意見を聴いていく。</p> <p>自主的に公園管理をしたいといった地域の団体の意向や活動状況を踏まえて、公園の環境や魅力の充実が見込める場合には、地域の団体へ管理を委託することとしている。公園管理・運営団体の仕組みづくりについても地域住民と話し合いながら模索していきたい。</p>
2	<p>(区立公園の整備等)</p> <p>区立公園の整備の際はユニバーサル遊具を設置してほしい。併せて増改築の際には、公園のトイレに赤ちゃんのおむつ替えシートの代替となるユニバーサルシートを設置してほしい。</p>	<p>これまでも公園利用者のニーズなどを踏まえて、「誰もが遊べる遊具の設置」や「トイレのバリアフリー化」を進めてきた。</p> <p>今後も設置の際、スペースが確保できるなど、条件の整ったところには、地域の声を聴きながら設置を検討していく。</p> <p>今後もユニバーサルデザインに配慮した公園整備を進めていきたい。</p>
3	<p>(区立公園の整備等)</p> <p>公園再整備のワークショップに参加している。公園の改修内容や利用ルールについて、区と直接議論できる場があり、嬉しい。しかし、参加者から出た様々な意見に対して、区から後ろ向きな回答をされてしまい、残念だった。より良い公園づくりのため、職員と前向きな議論をしていきたい。</p>	<p>ワークショップで提案されたことがどのように実現できるのか、関係法令や他の事例等を紹介しながら、建設的な議論ができるよう改善していきたい。</p>

No.	区民からの意見	区の見解・回答
4	<p>(区内交通環境の整備)</p> <p>新たな公共交通サービスの実証実験は、野方駅・都立家政駅・鷺ノ宮駅等の駅近くを通る運行ルートだと利用しやすい。</p>	<p>実証実験の運行ルートは、地元要望等を踏まえ鉄道駅に接続するなど様々な案を地域の方とともに検討したが、交通規制や道路が狭いなどといった問題により、関係機関や地域と調整を行う中で、車両走行や停留所の設置ができない箇所があり、現在のルートでの運行としている。</p> <p>今後も運行ルートをはじめとした実証実験内容の改善に向けて、実証実験の分析・効果検証を踏まえながら検討をしていく。</p>
5	<p>(中野区における脱炭素社会の実現に向けた分析調査)</p> <p>断熱ドアや太陽光発電は賛成だが、持ち家の方向けの施策である。環境問題は若者に関心が高い課題であるため、賃貸住宅に住む若者にも参加できる取り組みを、ぜひ検討してほしい。</p>	<p>多くの人に環境問題に関心を持っていただくために、これまでも、若者も含め誰もが参加できる様々な事業の実施に取り組んできた。中野区の地域特性を踏まえた分析調査の実施を通じて、より効果的な施策の展開について検討していく。</p>
6	<p>(太陽光発電システム補助の創設)</p> <p>太陽光発電は、個人宅で対応する場合、購入経費や維持費がかかるというデメリットもある。今後想定できる事例を分析し、他区の状況をみながら慎重に進めてほしい。</p>	<p>太陽光発電システム等の再生可能エネルギーの活用は、脱炭素社会の実現に向けた取組の一つとして、多くの区において補助が実施されている。中野区としても、脱炭素社会の実現のために、太陽光発電システム設置への補助が必要であると考えている。</p>
7	<p>(太陽光発電システム補助の創設)</p> <p>土地が狭く、家も小規模な中野区においては、一律に太陽光発電システム設置を進めるのは難しいと考える。他のエコ対策を活用し、中野区ならではの方策を、区民とともに模索していただきたい。</p>	<p>太陽光発電システム設置への補助に限らず、中野区の地域特性を踏まえた分析調査の実施等を通じて、脱炭素社会の実現に向けた効果的な施策の展開について検討していく。</p>
8	<p>(太陽光発電システム補助の創設)</p> <p>「太陽光発電システムの設置に対する補助の創設」とあるが、東京都が設置の義務付けをするため、東京都から言われて補助を開始するのか。また、太陽光発電のメリット・デメリットを教えてください。</p>	<p>区として、脱炭素社会の実現に向けて実施する取組である。</p> <p>二酸化炭素の排出削減により脱炭素に資する一方で、廃棄方法や災害時における破損等への対応等の課題もある。実施にあたり、課題への対応についても検討する。</p>

No.	区民からの意見	区の見解・回答
9	(プラスチック使用製品の資源化) ごみ分別をしっかりと徹底させる事に予算を組んでほしい。	資源とごみの分別については、分別方法等を記載したリーフレットやごみ分別チャットボット・アプリ、区ホームページ等で情報発信を行うほか、出前講座や各種イベント等により周知、普及啓発を行っているところである。 また、法改正に伴い、令和6年度からプラスチック容器包装に加え、プラスチック製品の資源化を実施する。資源とごみの分別方法も一部変更となるため、区民向け説明会やリーフレット内容の見直し及び全戸配布など、周知・普及啓発の充実を図っていく。
10	(通学路児童見守り業務) 東中野に居住する子ども達が長時間危険な通学をしている問題を越境入学の制度化で解決をして欲しい。	東中野五丁目及び四丁目から白桜小学校へ通う児童の安全を確保する重要性は認識している。他区からの区域外就学(いわゆる越境入学)について、新宿区教育委員会は35人学級の導入に伴い受入れ条件を見直し、距離が近いという理由では一律受入れを不可としており、区外からの通学をお願いすることは難しい状況である。 当区では、令和5年度通学路児童見守り交通安全指導員の配置時間を増やすとともに、今後も安心して通学できるよう通学路安全合同点検等を含め警察署等と連携し、一層通学路安全対策に取り組んでいく。

⑤ 区政運営等に関する取組

No.	区民からの意見	区の見解・回答
1	(新庁舎整備事業及び新庁舎移転に伴う業務改善) 区役所新庁舎のトイレは使いやすくしてほしい。区民のための掲示板を充実させてほしい。おいしい食堂を整備してほしい。職員には生き生きとしてほしい。	新庁舎には、だれもが使いやすいトイレや食堂、区民が多様な情報を得られるよう整備するほか、職員が働きやすい執務環境について検討していく。

No.	区民からの意見	区の見解・回答
2	<p>(新庁舎整備事業及び新庁舎移転に伴う業務改善)</p> <p>新庁舎への移転に伴うペーパーレスの取り組みは、現時点でどのくらい進んでいるのか。</p>	<p>新庁舎移転時には、令和3年2月に調査した現庁舎の組織文書約9,000f mを60%削減することを目標としている。</p> <p>この目標を達成するため、ペーパーレス推進本部を立ち上げ、全庁で文書削減活動を行った結果、令和3年度末には、約30%削減することができた。</p> <p>新庁舎移転までの間、引き続き文書の電子化等を図り、紙文書の削減を推進していく。</p>
3	<p>(新庁舎整備事業及び新庁舎移転に伴う業務改善)</p> <p>新庁舎の窓口業務は、「来ない、来たとしても迷わない」ことを目指していると聞いている。しかし、この目標を全ての区職員が理解して、新庁舎移転に向けた取り組みをしているのか疑問である。</p> <p>また、区の業務のデジタル化に全ての職員が対応できるのか。</p>	<p>新庁舎への移転を契機に窓口業務の改善に向け、新たな窓口サービスを検討し推進する組織を設置しており、そこで検討した結果については、全庁で情報共有を図りながら進めている。</p> <p>区の業務のデジタル化については、全ての職員が対応できるよう、区職員の意識やリテラシー向上のための研修を実施するとともに、全庁で活用を図るICTツールについては、先行導入や段階的導入を行うなど、円滑なデジタル化に取り組んでいく。</p>

※同様の意見についてはまとめて表記しています。